

第 5 回 氷見市総合計画審議会 会議録	
日 時	平成 2 4 年 1 月 2 7 日 (金) 1 3 時 3 0 分から 1 5 時 5 0 分まで
場 所	氷見市役所 第 2 ・ 第 3 委員会室
出席者	委員 石出会長、前田副会長、上野委員、大引委員、小川委員、川上委員、久保委員、越田委員、佐藤委員（代理出席：古川コマツキャストックス総務部長）、竹内委員（代理出席：新村高岡厚生センター氷見支所長代理）、田嶋委員、土居委員、中川委員、中本委員、七尾委員、西野委員、本川委員、松波委員、松原委員、圓山委員、村田委員、森本委員、山岸委員、横山委員（代理出席：中川高岡農林振興センター企画振興課長）（出席 2 4 名） （欠席 5 名）
	市 堂故市長 策定委員会（棚瀬副市長、前辻教育長、定塚企画振興部長、金谷総務部長、西塚総務部防災・危機管理監、宮本市民部長、江添建設農林部長、七瀬会計管理者、野議会事務局長、山崎教育委員会理事・教育次長、有島消防長） 事務局（桶元企画政策課長 外 6 名）
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議 事 (1) 基本構想（案）について (2) 基本計画（案）について (3) 目指す都市像について (4) 指標について (5) 意見交換 (6) 事務連絡 5 閉 会
資 料	資料 1 第 8 次氷見市総合計画基本構想（案） 資料 2 第 8 次氷見市総合計画前期基本計画（案） 資料 3 第 8 次氷見市総合計画重点プロジェクト事業計画（案） 資料 4 第 8 次氷見市総合計画前期基本計画（案）概要版 資料 5 第 8 次氷見市総合計画施策体系（案） 資料 6 第 8 次氷見市総合計画目指す都市像（案） 資料 7 第 8 次氷見市総合計画重点プロジェクトの達成度を測る指標（案）一覧表 資料 8 第 8 次氷見市総合計画における「こころの指標」について

1 開 会

[事務局]

- ・ 定刻となったので、只今から第5回氷見市総合計画審議会を開催する。

2 会長あいさつ

[会長]

- ・ 大変ご多用の中、ご出席賜り感謝申し上げます。委員、市当局の皆様とは、本年最初の顔合わせとなる。昨年来のご尽力に感謝申し上げますとともに、本年もよろしくお願ひしたい。
- ・ 関東地方に雪が降り、交通機関が分断した。高齢化が進む氷見市においても除排雪活動など、市民の安全で安心な生活を守る施策を一層進めていかなければならない。
- ・ 審議会も5回目を迎えるが、委員の皆様のご協力により「基本構想」、「基本計画」、「重点プロジェクト」という「第8次氷見市総合計画」の根幹部分の完成形が見えてきた。
- ・ 本日は、最終的なご意見をいただくとともに、「目指す都市像」などについてもご議論いただき、「答申」に向けた締めくくりの審議の場となるようにと考えている。忌憚のないご意見を賜りたい。

3 市長あいさつ

[市長]

- ・ 本日は、寒波襲来で寒く足元が悪い中、皆様には貴重な時間を頂戴し、また、昨年来、委員の皆様には熱心にご審議いただき、感謝申し上げます。
- ・ いよいよ、新しい年となった。今年は市制60年という節目の年であり、総合計画を新たにスタートする年でもある。
- ・ 明治維新にも匹敵するような変革の時代、そして、昨年には東日本大震災が発生したという背景の中、しっかりと気持ちを引き締めて市政に取り組んでいかなければいけないと思っている。
- ・ 前回の審議会では10年間の間に重点的・戦略的に取り組むべき重点プロジェクト、そして、5年間の前期基本計画についてご審議していただいたが、本日

は、それらのほか、総合計画の顔でもあり、氷見市の目指す都市像についてのご審議をよろしくお願い申し上げます。

4 議 事

- (1)基本構想（案）について 及び
- (2)基本計画（案）について 及び
- (3)目指す都市像について 及び
- (4)指標について 及び
- (5)意見交換

（事務局より、前回からの主な変更点等、資料説明）

[委員]

- ・資料1の2ページ目の4行目、「経営資源（ヒト、モノ、カネ）」と21ページの2行目は同じことなので、統一してはいかがか。
- ・2ページの「選択と集中」を、「有効活用」としてはどうか。
- ・2ページ目に「実施計画」とあるが、「事業計画」ではないのか。重点プロジェクトでは「事業計画」であった。

[事務局]

- ・実施計画は、新年度予算等を踏まえてこれから策定するものである。重点プロジェクトの事業計画（案）とは異なり、基本計画を実施するための市政全分野に係る各事業の3年分の計画をまとめたものである。これについては、早急に取りまとめ、各委員にお示しする。
- ・「経営資源（ヒト、モノ、カネ）」については、表記を統一する。
- ・「経営資源の選択と集中」については、氷見市の予算の説明などで一般的に使用する言葉であるが、検討させていただく。

[委員]

- ・資料1の11ページの「安全・安心意識の高まり」の3行目、「あってはならない原子力災害」とあるが、当たり前のことなので書く必要はないのではないか。
- ・20ページの1行目、「リピーターの確保」だが、「リピーター」というのは良い意味と悪い意味があり、来ていただく人にとって失礼があるのではないか。例えば、「もてなしの向上によってもう一度氷見市を訪れたい気持ちになってい

ただく」等にしてはどうか。

[会長]

- ・表記に関しては、後ほど説明させていただくが、一任していただきたい。
- ・続いて、新規の審議内容となる、資料1の14ページに進ませていただく。

[事務局]

- ・目指す都市像については、資料6に（案）を提示している。目指す都市像は、14ページに記載されている基本理念に基づき、総合計画策定委員会で検討した。その結果、3点に絞り込み、その中から特に氷見らしさが強調されている「人と自然と食がきらめく交流都市 ひみ」を目指す都市像の候補とした。※印で、意味を記載してある。皆様のご審議をお願いしたい。

[会長]

- ・参考として他の2件を提示した理由はあるのか。

[事務局]

- ・目指す都市像については、他にも10件ほど事務局から提案し、策定委員会で審議され3件に絞り込んだものであるが、策定委員会では優劣がつけがたく、他2点を参考として提示し、審議会の皆様にご審議いただくものである。

[委員]

- ・私は、「交流都市」よりも「幸福都市」が良いと思う。

[会長]

- ・あえて「交流」という言葉を使ったのは、過去の計画からの流れもある。

[企画振興部長]

- ・第7次氷見市総合計画では「人と自然がなごむ交流都市 ひみ」としていた。市長は、今回、第7次よりも進んだ形で、今回の計画を進めたいという思いがある。特に、第7次では6万人定住と200万人交流を前面に出していたが、今回、重点プロジェクトでは300万人交流を打ち出しており、北大町市有地での食を生かしたまちづくりなどに積極的に取り組んでいきたいという意味もあり、引き続き「交流」を提案させていただいた。

[会長]

- ・個人的には、人も自然も食もきらめくという大変贅沢なものだと思う。
- ・先程、幸福都市という提案もあったが、「交流」ということは「近説遠来」から

きており、観光の氷見という意味も「交流」に含まれているのではないかと。氷見市民、また、氷見を訪れる人々の氷見だという意味合いもあるのだと思う。

[委員]

- ・氷見という名前の表記について、漢字とひらがながある。特別な意味はあるのか。

[事務局]

- ・今回は、「ひみ」というひらがなを使用している。明確な基準はないが、策定委員会ではひらがなで表現することによってソフトなイメージになるという判断であった。

[委員]

- ・やわらかい表現を選択ということに了解した。

[委員]

- ・交流人口が300万人になればよいと思う。ただ、誰かが交流人口を集計されると思うが、年ごとに計算の仕方が変わらぬよう、しっかりとした集計方法を考えていただきたい。
- ・私は「ひみ」の表記について、ひらがなを使うことには疑問を感じる。

[企画振興部長]

- ・300万人交流についての累計については、現在、商工観光戦略課で行っている方法でと考えている。
- ・「ひみ」が漢字の「氷見」になった理由についてはいくつかの説があると言われている。火を見る、立山の万年雪（氷）を見るなどだが、ひらがなで表記をした方がやわらかく受け取れるのではないかとということと、第7次でもひらがなを用いたことから今回もそうしたいと考えている。

[委員]

- ・目指す都市像については、外に発信するものなのか、市民向けのものなのか。外に発信し、300万人交流を目指すのであれば、漢字の「氷見」も覚えてもらわなければいけないのではないかと。市民向けにこういうものを目指しましょうというのであれば、やわらかい表記でも良いと思う。

[会長]

- ・総合計画は市内向けなのか、市外も意識しているのか。

[事務局]

- ・冊子を作るだけでなく、ホームページ等でも公表することから、市外の方にも多く目にしてもらおう。

[企画振興部長]

- ・根本は、氷見市民のために作っている計画である。

[会長]

- ・表現については、感性の問題でもある。

[委員]

- ・全国向けの「ひみ寒ぶり」等のコマーシャルの場合、必ず漢字が使われるように思われる。市をコマーシャルするつもりであれば、漢字の方が良い。小さな子どもたちにも知ってほしいというのであればひらがなが良い。

[委員]

- ・昭和20年の初め、全国大会で「氷見高校」を「ひょうみ高校」と紹介され、嫌な思いをした。今では、「ひょうみ」という人は余りいない。「ひみ」という言葉が市民権を得て嬉しく思う。何にしても「氷見」が全国版になれば良い。
- ・字面で重箱の隅を突つのはいやだが、「きらめく」というのは随分素敵だと思う。日本語に対する文化価値思考の違いだが、もっと素直に「かがやく」ではいけないのか。「人がきらめく」というのは、金メダルが輝くみたいで、この計画が私たちに対して幸せを与える場合、「きらめく」なのか、星はきらめくが、素直に「かがやく」と表現してはいけないのか。

[事務局]

- ・「きらめく」と「かがやく」との違いを調べたところ、「かがやく」は自ら光を発するという意味があり、「きらめく」は光をいただいて反射するということに加え、「かがやく」と同じ意味もあった。自らも光を発するけれども、お互いに光を受け入れ合って相乗効果でより高めていくというイメージから、今回は「きらめく」というフレーズにした。

[委員]

- ・昭和42年の岩手県でのインターハイで氷見高校男子を引率した際、試合後休憩していると、岩手県の方が「こおりみこうこう」と言ってきた。すると、その場にいらっしやった高田宮殿下が、その方に「ひみこうこうと言うんだよ。」

とおっしゃった。その時、「ひみ」を全国にもっと広げなければいけないと思った。どうPRしなければいけないか、真剣に考えなければいけない。

[委員]

- ・皆の話を聞いていて、どちらでも良いのではないかと感じていた。ただ、やわらかくするためひらがなということであるが、前の文章は漢字が多く、「ひみ」というひらがなの部分に違和感があった。「きらめく」にするのであれば漢字の方が良かったのではないか。

[会長]

- ・これは総合計画のキャッチコピー的なものであり、先程、氷見の宣伝のためなら漢字の方が良いと言われたが、個人的にはキャッチコピーというものは、ひらがなが多いのではないかと感じている。この問題については、感性の問題でもあり、事務局の原案でいかがか。

[委員]

- ・異議無し。

[会長]

- ・原案どおり審議会でご了解いただいたということにさせていただく。
- ・先程、300万人交流の集計についてご指摘があったが、後ほど、資料7で総合計画が策定された後の進捗状況をチェックするための指標についても審議させていただく。
- ・14ページの1、2については、これでよろしいか。なければ、原案のとおりとする。

(事務局より、基本計画(案)の概要説明)

[委員]

- ・資料2の15ページの(3)感染症予防対策の推進の現状と課題にある「新型インフルエンザ」を見て、一昨年発生した新型インフルエンザを思い浮かべる方も多いと思うが、それは季節型インフルエンザとなってしまうている。例えば「強毒性」や、「毒性の強い新しいインフルエンザ」という表現に修正をお願いしたい。

[事務局]

- ・担当課と協議し、適切な表現に修正する。

[委員]

- ・資料4の7ページ、家庭の教育力の向上に「近住や三世代同居等の促進」とあるが、高齢者と一緒に住もうという同居等の促進は、子育ての所で必要なことなのか。何か施策を考えているのか。ライフスタイルにまで介入するようで行き過ぎなのではないかと感じる。
- ・一緒に住んでなくても三世代交流は出来るし一緒に住むことは良いことだが、それができない何か理由があって同居していない家庭がたくさんあるのだから、その点をどう考えているのか伺いたい。

[事務局]

- ・委員ご指摘のとおり、事情があって同居されていないことは理解している。
- ・核家族化が進んできている中で、祖父母から父母へ、子育てのノウハウ、知識がスムーズに受け継がれ、子どもたちが健やかに育ってくれば良いのではないかとこの観点で提案させていただいた。
- ・三世代同居をするための住宅への助成制度を行っている自治体もあり、具体的にどうするのかということは、今後、そういったものを参考にしながら研究していく。

[委員]

- ・今の考えがメインであれば、資料2の20ページに書くべきではないか。孫育てに特化するのであれば表現はちょっと違うと思うし、住宅への補助であれば20ページに書くべき内容である。
- ・南大町保育園の利用者が非常に多いのは、三世代同居が多いのではなく、働きに行くときに、年寄りの家に預け、送り迎えは年寄りがし、若い者が帰ってくるまで年寄りの家で遊んでいるからだ。別に近住でも三世代同居でなくても、こういった交流は十分にできる。なにか、ライフスタイルまでに踏み込んでいくようで違和感を覚えた。
- ・私が住んでいる駅前の整備について、この計画には具体的には記載されていないが、先月から駅前の工事の説明に担当課が来ている。せっかく観光の1つの拠点として動き出そうとしているので、そういうこともPRしてもらいたい。そして、もっと大胆に考えて事業をしてもらえればよい。現在、駅前に住んでいるのは2軒だけであるので、空き店舗を利用してもらいたい。

- ・道路だけよくしてもダメだ。車社会なので、新しくできる商業施設が市の顔になると思うが、裏玄関口としては、もう少し大胆な政策をしてもらいたい。
- ・少ないが、住んでいる人間もいる。どうしても利用者中心の計画となるが、そこを整備して盛り上げるのは近隣住民なので、その点も考慮した政策を行ってもらいたい。資料4の14ページ、JR氷見線の活性化というところで、駅前には観光協会の事務所もあり、そこと連携して裏玄関口として整備してもらいたい。

[建設農林部長]

- ・駅前の道路がクランク状態になっており、そこを改修する計画で地元住民に説明させていただいている。当然、地元住民のご意見を取り入れたいと考えている。今後、住民の方にも、訪れる方にも便利で、そして有効に活用できるよう皆さんと協議しながら進めていきたい。

[委員]

- ・資料4の6ページ、豊かな自然環境の保全と美しい景観づくり、資料2の27ページ、自然環境の保全の部分で、森林の育成、生物多様性の確保、氷見海岸の保全と3つに分かれているが、氷見では海洋資源が重要になってきている。
- ・海の幸を育てる海から森林までが一つの市域だけで循環している地形の氷見市だからこそ、森を育てることは海の中も育てるという発想を持って自然環境の保全に取り組んでいくという表現を取り入れてはどうかと思う。

[事務局]

- ・委員のおっしゃるとおり、事務局も考えている。川で繋がる海と森、里山と里海ということを思いながら、自然環境の保全についてまとめさせていただく。
- ・海岸線の保全については、分離するのではなく浸食対策というところを意味した事業である。

[会長]

- ・同じ思いとのことだが、どこかに表現してあるのか。

[事務局]

- ・市民参加による森林の育成・保全の中でも、里山林を活用した交流の推進や、川上から川下に至る市民の連携による森づくりの促進、こういった中で、川で繋がる里山、里海ということを多くの方に理解していただけるようにしたい。

[委員]

- ・今、説明を聞くと分かるが、聞かないと、ここからは海と森がつながっているという発想は出てこないなので、ぜひ海という文言をこの森林の部分に入れてもらいたい。

[事務局]

- ・表現を工夫させていただき、委員ご指摘のとおり分かりやすく表現する。

[会長]

- ・先程来、表現についていくつか指摘あったが、表現については会長と事務局に一任していただきたい。

[委員]

- ・資料4の13ページ、中心市街地活性化の部分で、専門相談員、経営指導員による相談・指導・支援とあるが、今現在、行政に相談員、指導員はいるのか。

[事務局]

- ・専門相談員による指導について、現在、商工観光戦略課で融資制度など、国・県の制度について相談にのっているが、中小企業診断士のような資格をもった者はいない。専門的な知識を有する者については、資格をもった者の雇用や委託など、今後の検討課題である。本当の細かい経営相談については商工会議所で行っている。

[委員]

- ・ひみまつりや専門委員会などに出席して思うことだが、行政がやることについて、過去にどれだけの実績があって求められるかという検証無しに、新しいことを企画し、それにお金を使うということはどうなのか、今まで商工会議所に委託していたのであれば、行政の中に経営指導員を設置することは疑問である。中心市街地活性化は、店舗や経営指導のどうのこうのという問題ではなく、力ある経営者にいかに出店してもらおうかということである。

[事務局]

- ・委員のご指摘は、具体的、かつ実践的であり、計画をどうするかということよりも踏み込んだものであった。いずれにしても、中心市街地の活性化を図るためには、魅力あるまちなみづくりが何よりも重要だと考える。中心市街地の活性化のための施策には、魅力ある店舗づくりの他、まちなみづくりということ

で、商業空間の形成だとか、藤子氏のまんがキャラクターを生かしたまちづくりを推進することによって、中心市街地の活性化を図っているところである。こういった施策を引き続き推進しながら、多くの方が回遊できるまちづくりを本計画において提案しているところである。

[企画振興部長]

- ・全てについて言えることだが、水産、農業、商工、観光など、これらについては、商工会議所、漁協、農協等と連携して施策を進めていきたいという意味で書いてある。

[委員]

- ・民間の会社経営者であれば投資に対して、どれくらいの対価効果があるのかなどの検討無しに新しい分野に手は出せないのであるが、過去にそういうものがあるのであれば、その上で、投資するにあたり、どれくらいの効果が得られるのか、本当に必要なのかよくよく検証していただきたい。

[企画振興部長]

- ・各課において、念頭に入れて取り組む。

[委員]

- ・資料2の26ページ、ゼロ・エミッションの促進とあるが、具体例を聞かせていただきたい。また、エネルギーの有効活用ということで太陽光発電など再生可能エネルギーの導入推進とあるが、今後の計画について教えていただきたい。

[市民部長]

- ・ゼロ・エミッションについては、下に注釈がある。産業で廃棄されたものを産業の原料として使用して資源の有効活用を図るという活動を推進していきたい。
- ・再生エネルギーについては、昨年から太陽光発電の助成制度を創設し実施している。1件5万円、初年度の平成22年度は25件の支援の申込みがあり、平成23年度については震災の影響もあり、大幅に増え60件程度の申込みがある。現在、取り組んでいるのは太陽光発電だけであり、その他のものについては今後検討していく。

[委員]

- ・新しく家を建てる人が屋根に太陽光パネルを設置するために5万円を補助しているのか。市が発電して電気を供給する、または売電するという考えはあるの

か。

[市民部長]

- ・今のところ、市が発電し売電する考えは無い。太陽光発電の支援については、市だけでなく国・県と合わせて支援している。

[委員]

- ・資料2の2ページ、⑥国民保護情報の提供とあるが、市民の思いとすれば、情報を提供されても、その後どう対応すれば良いのかということが不安だ。対応について、何らか示していただきたい。不安をあおる、かえってパニックになる場合もある。
- ・資料2の31ページ、②1行目に子どもの健康づくりの推進に関連してであるが、医学雑誌に最近幼児に「くる病」が増えてきているとある。大きな要因は、母乳での育児が進んでいるが、母乳の中のビタミンDが少ないからだ。日光浴をすれば、「くる病」は発生しないが、赤ちゃんの育児相談時に、以前は生後3か月を過ぎると日光浴をするように指導したが、最近は日光による皮膚ガンの発生が力説されたため、乳児相談でも日光浴ということを言わなくなった。日光浴をすることで、人はビタミン類を作り出すのだが、このような状態のため、「くる病」という思いもよらない事が発生した。
- ・健康づくりの推進という意味では、子どもの健康、ことに小さい子どもの健康状態は社会の変化に敏感に影響がでてくる。そういう意味では、社会変化に伴う赤ちゃんの健康状態の異常ということに情報を集めてもらうような、そんなシステムを加えていただきたい。
- ・子どもの生活習慣病予防では、とにかく食事の事を重要視してしまうが、高カロリーのものを食べすぎることも問題だが、もう一つ、予防するうえで重要な事は運動である。たくさん食べても、よく動けばカロリーはある程度消費される。大人のような強いダイエットは必要ない。そう意味では、子どもたちに運動に親しむ機会をつくってもらいたい。
- ・子どもの運動能力を高めるという事よりも、運動する事で達成感なり爽快感なり、あるいは仲間づくりなどの波及効果のほうが、その子の人生に大きな影響を与える。そういったスポーツを中高生で親しんで社会に出て、一旦、スポーツから離れる事もあるだろうが、中高年になったときに、再び運動を始めたと

き、体で覚えているのですぐに馴染み、継続する事が出来る。運動をした事が無い者は、運動を始めようと思っても、何をしてよいか分からない、長続きしない。

- ・生活習慣病予防に大きなきっかけを作るのは、小さいころからだと思う。生活習慣病というものは、今までの生活習慣が誤っていたということであり、それを予防するとなると、今までの生活態度を改めるということになるが、なかなか人は出来ない。小さいころからの基本的な生活習慣として身につける事が大事であるので、子どもたちが運動に親しむ機会の提供と、子どもたちの励ましとなるようなプログラムの開発があればよいと思う。

[市民部長]

- ・大人になってからの予防も考え、幼児期からの教育的なものも必要ではないかと考えここで載せたものである。
- ・委員ご指摘の子どもに適度な運動をさせて達成感を持ってもらうとか、「くる病」などの子どもの健康に関する情報の収集・提供についてシステムを作っていくなどの施策については、今後、検討していきたいと考える。

[総務部防災・危機管理監]

- ・2ページの国民保護情報の提供のJ-アラートについては、様々な情報手段の中で、氷見市としては、防災行政無線の整備の中で行うものである。パニック、不安などの対応については、1ページ②地域防災計画の見直しの中で、ある程度お示しできるものと思っている。地域の事情に合った防災力の強化で、自主防災会の繰り返しの災害訓練等の定期的な実施により、ある程度克服できるものと思っている。

[副会長]

- ・資料4の災害救援ボランティアの受け入れについて、計画の中身のところで、市内21地区社協が窓口になるように書かれているが、実際、地区の情報を集めているのは自主防災組織ではないか。地区社協に聞いても、全体を把握できないのではないかと。

[総務部防災・危機管理監]

- ・災害時における、ボランティア活動の受け入れについては、おっしゃるとおり、基本的に各21地区の自主防災組織が現状の被害者のニーズを把握することに

なると思う。これについては、他からのボランティアの受入れを整理して、実際のニーズは自主防災組織が把握していく事になる。

[会長]

- ・表現については、先程申したとおり、事務局と会長が相談し、改めるところは改める。基本計画の内容は、これでよろしいか。

[委員]

- ・よろしい。

[会長]

- ・これで、基本計画の内容は審議されたものとし、次の議題に進みませてください。

(事務局より、資料7、8の説明)

[会長]

- ・第8次氷見市総合計画をしっかりフォローアップするという市当局の熱意の表明と思う。大いに頑張ってもらいたい。

[委員]

- ・資料7の重点プロジェクトの達成度を測る指標は、総合計画の最終時点での達成度を100%とすると、それに対して、現実はどうであったかということなのか。
- ・総合計画が終わった時点で、それぞれの項目の達成度はどれだけを想定しているかということが大事だと思う。

[事務局]

- ・おっしゃるとおり、達成度はどうなのかということが、その後の計画の進み具合を測るうえで大事な事である。今後、この指標でどの程度の目標を設定するかということを担当課と検討する。

[委員]

- ・今までは、達成度を測る指標は無かったのか。

[事務局]

- ・指標は設定している。前期の平成13年度から平成18年の5年間の達成状況は把握しているが、後期については計画期間が残っているので、終了後調査する。

[市長]

- ・今まで行政では、10年間でいくら使ったかという事が主に達成度の基準であり、審議会にも報告してきた。
- ・この10年間には、市も合併するかどうかという大きな議論に巻き込まれ、単独市政を歩むことを決めた。そして、行革を断行する中で、総合計画を実施し、指標が相当変わるということもあった。
- ・行革の委員に何度も集まっていたが、総合計画をやり直すぐらいの局面があった。そういう中で委員には毎年、進捗状況をお知らせしてきた。

[会長]

- ・基本構想、重点プロジェクト、基本計画全体について他に意見が無ければ、これでご了解いただいたものとしたい。
- ・事務局では今日以降もご意見を受け付けるという事であるが、3月中に答申文を作成し、市長に答申することになる。これについては、会長と事務局で手続きを進めさせていただきたい。

(6) 事務連絡

[事務局]

- ・今後も、委員のご意見を承りたいので、2月3日までに事務局までお寄せいただきたい。

5 閉 会

[会長]

- ・第8次氷見市総合計画に関する全体会議での審議は今回で終了とさせていただく。委員の皆さまには、本日を含めてこれまで5回の全体会や部会において、ご多用の中、熱心にご審議いただき、深く感謝申し上げます。これからも、総合計画の推進にさらにご協力をいただくとともに、氷見市の発展のためにお力添えを賜りたい。

[市長]

- ・委員の皆さまの、これまでのご尽力に対し心より感謝申し上げます。